

第3回

発表は日々の 記録から生まれる

私たちが活動していると、いろいろなことに気づきながらさまざまな疑問に突き当たります。そのような気づきや疑問が整理されてくると、物事の関係が浮かび上がってきます。たとえば、定期的に健康づくりセミナーを開催していたとします。参加者の数や年齢層は毎回同じでしょうか。そういった気づきや疑問から研究は始まります。

各回ごとの参加者の数を、性別、年齢といった属性によって整理してみます。男性が多くなる回や年齢の高い人が増える回というのがあるでしょうか。その理由は何でしょうか。一定の法則があるのでしょうか。次々と疑問が膨らんでくるでしょう。その中に何か重要な発見が隠されているかもしれません。

日本公衆衛生学会理事・評議員
(一財)宮城県成人病予防協会学術・研究開発室長
小島 光洋

研究というと、調査や検査をした結果を統計解析して結論を出すというイメージが強いと思います。このような研究は、物事関係を仮定してそれを確かめるための研究です。それと並んで重要な研究に、物事関係を見つけるための研究があります。前者は理論検証型、後者は理論生成型の研究と呼ばれます。

重要な神経反射として知られている「バビンスキー反射」を発見し報告したババンスキーの論文はわずか28行です。簡潔で無駄のない観察報告です。まず、日々の活動を通して、見たこと、気づいたこと、感じたこと、考えたことを報告してみましょ。仕事をやりっぱなしにしないためにも記録することは大事です。